

## 6. 事業内容

妊産婦・乳幼児の健康増進につながる知識・行動・態度を啓発し、保健サービスの質およびアクセスを改善できるよう、コミュニティ・ベースのケアのアプローチを人材育成・地域住民の参加に力点を置いて普及していく。このアプローチは、リプロダクティブ・ヘルス活動(RH：妊婦検診、破傷風ワクチン接種、鉄分補給、安全で衛生的な出産、栄養指導、完全母乳育児の推進、完全予防接種を促す産後訪問の実施など)、コミュニティ・ケース・マネジメント(CCM：下痢や肺炎などへの応急処置と重篤なケースの医療機関への照会、栄養不良の子どもの特定など)から構成され、母と子を継ぎ目なくケアする継続ケアの理解と行動変容を促すことに主眼が置かれている。

第一年次は対象となるタウンシップごとに 50 村、計 300 村において、保健ボランティア (RH ボランティア、CCM プロバイダー (CCMP)) を育成し、村内における保健栄養チームを結成して母子保健の重要性を母親や保護者、地域住民に対して、啓発していくことができた。第二年次は、第一年次に活動を実施した村での定期的なモニタリングおよび保健ボランティアへの再研修などのフォローアップを実施するとともに、各タウンシップの新規対象村において、引き続き、第一年次と同様の活動を実施する。下記、タウンシップごとの対象村の数および裨益者数となる。

タウンシップ	村数	人口	5 歳未満の 子どもの数	妊産婦	新生児
テゴン	50	16,596	994	222	222
クンジャンゴン	50	25,192	2,443	684	684
ソー	39	13,771	1,022	16	16
セダタラ	40	7,606	720	211	211
ミンドン	50	16,153	740	177	177
ンガベ	35	10,926	1,033	86	86
<b>合計</b>	<b>264</b>	<b>90,244</b>	<b>6,952</b>	<b>1,396</b>	<b>1,396</b>

主要な活動としては、第一年次と同じく、母子保健活動に従事する地域の保健ボランティアの育成や村での保健栄養に関する啓発活動、医療専門家との連携行っていく。下記、活動の詳細となる。

### 1. ボランティアによるコミュニティ・ベースの保健栄養の教育

新生児・乳幼児のケアに関する保健知識の啓発活動、RH ボランティアによる妊産婦ケアの実施、RH ボランティアによる 5 度の産後訪問の実施

### 2. コミュニティでの疾病予防と母子保健ケアの提供

CCMP による CCM を通じた母子への支援、妊産婦ケア・新生児ケア・男性の参加に関する RH ボランティアへの研修、CCM に関する CCMP への研修、一年次に育成したボランティアの再研修

### 3. 医療専門家との連携による保健システムの強化

	<p>助産師を対象とした新生児ケア・緊急産科ケア等に関する再研修、補助助産師の人材育成支援、タウンシップ医療従事者の継続学習の支援、サブ・ルーラル・ヘルス・センターの建設支援（テゴン、クンジャンゴン、ソー、セドタラの4タウンシップにて）</p> <p><b>4. コミュニティでのケアの質の向上と定着</b></p> <p>村のリーダーや受益者とのアドボカシー・ミーティング、地域の参加やマネジメントに関する研修および人材育成</p>
<p>7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など</p>	<p><b>【①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果）】</b></p> <p>第一年次における最大の成果は、目標としていた300の対象村全てにおいて、保健ボランティアの育成および村内における保健栄養チームを結成できたことである。これにより、母子保健の主要な事項について、母子に対する啓発、理解促進を行うことができた。下記、活動毎の成果となる。</p> <p><b>1. ボランティアによるコミュニティ・ベースの保健栄養の教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ボランティアの人材育成が完了し、9月以降、妊産婦および新生児、乳幼児の健康に関する情報発信を行うことができた。9月2,278名（テゴントウンシップでの実施）、10月12,701名、11月15,642名、12月13,751名の地域住民が参加した。</li> <li>➤ 視聴覚教材を用いた小児感染症の危険兆候に関する啓発活動を実施し11月には3,843名が、12月には3,431名の保護者などが参加した。</li> <li>➤ RHボランティアが230件の産前訪問、121件の産後訪問を実施した。</li> </ul> <p><b>2. コミュニティでの疾病予防と母子保健ケアの提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 593名のRHボランティアを対象とした妊産婦ケア研修が完了し、危険兆候を含む産前・出産・産後ケアなどについて学習した。</li> <li>➤ 592名のRHボランティアを対象とした新生児ケア研修を開催し、継続ケアの重要性や母乳・補助食の栄養指導などについて学習した。</li> <li>➤ 871名のRHボランティアを対象とした男性の参加に関する研修を実施し、リプロダクティブ・ヘルスの重要性などについて学習した。</li> <li>➤ 596名のCCMPを対象としたケースマネジメントに関する研修が開催され、下痢や肺炎など一般的な小児疾患の対処方法などについて学習した。</li> </ul> <p><b>3. 医療専門家との連携による保健システムの強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 対象としている6のタウンシップで合計92名の助産師を対象に再研修を行う（現在、実施中）。助産師は、新生児ケア、緊急産科ケアや乳幼児の栄養・補助食に関する再研修を受講する。</li> <li>➤ タウンシップ医療従事者の継続研修への支援を行い、主要な小児感染症への対処やリプロダクティブ・ヘルスなどについて再学習を実施した。</li> <li>➤ 対象としている6のタウンシップで合計114名の補助助産師の候補生を対象として人材育成支援を実施中である。各タウンシップでは、補助助</li> </ul>

- 産師不足が深刻であり、計画の 80 名を超える人数の育成を行った。
- サブ・ルーラル・ヘルス・センターの建設候補地の選定を完了した。

#### **4. コミュニティでのケアの質の向上と定着**

- 当該事業の全ての対象村においてアドボカシー会合を開催し、事業目的と活動、地域住民の参加の重要性を説明した。村長や 5 歳未満の子どもを持つ母親を含む、合計 15,665 名が参加した。
- 事業の持続性を高めていくため、地域の参加やマネジメントに関する研修および人材育成を実施しており、地域のリーダーなど約 1,500 名の参加を見込んでいる。

#### **【②これまでの事業を通じての課題・問題点】**

事業開始直後の水祭り休暇や雨季の影響で、事業の立ち上げ期の活動に遅延が生じたものの、その後、複数の人材育成研修や村での啓発活動を統合して実施することやアウトリーチワーカーが村に滞在して移動の時間を節約することなどの工夫を凝らしたことで、村での啓発活動を円滑に進めることができた。

なお当該事業は、そもそも保健省の方針と連動して立案されており、さらに、補助助産師の人材育成支援やサブ・ルーラル・ヘルス・センターの建設支援など事業実施においても協働は不可欠である。このため、タウンシップレベル、地域レベル、中央レベルでの保健局、保健省との密なコミュニケーションおよび透明性の高い説明が今後も重要である。

#### **【③上記②に対する今後の対応策】**

第一期の活動における行政との連携を通じて、良好な関係を構築し、かつ事業についての理解も深めつつあるため、この信頼関係を第二期の活動においても継続していくよう努力する。